

序言

リスク社会 発展・共識・危機

2012年は、日中国交正常化40周年という節目の年であった。また、2011年の日中貿易総額が3449億1623万ドル（前年比14.3%増）となり、過去最高を記録した。中国はアメリカに代わって日本の最大貿易相手国となった。さらに、環境分野を始め、教育や文化など経済以外の分野でも交流、協力は拡大している。

しかし、日中間では、領土問題をめぐる反日デモ、暴力事件が発生し、殆どの記念行事は中止され、日中関係は急速に緊張感を増し、政治、経済を始め様々な影響が指摘されている。経済関係が深まる中で、領土をめぐる政治的な緊張関係は日中間に止まらず、日韓関係も例外ではなかった。世界の「成長センター」と言われている東アジアで一体何が起きたのか。2013年はじめ、日本の新体制も発足したが、依然解決の道は見えないままである。

私たちは、日本、中国、韓国の相互関係で発生している問題、すなわち東アジアで起きている問題は、グローバル化の拡大および深化によって生じる問題を象徴するものであり、また東アジア地域の構造的変化として捉えるべきだと考える。ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックは、世界の近代化を「リスク社会」として捉えた。つまり、近代化する社会は、リスクを統御し、支配する複雑なメカニズムを発展させてきた。一方、近代社会の必然的帰結として、「空間的・時間的に無境界なリスク」が、社会的に生産され、近代社会そのものへの脅威となっている。ベックは、この状況を「困窮は階級的であるが、スモッグは民主的である」と端的に言い表している。たとえば、環境問題は時空間や階級に関係なく、すべての人びとにふりかかる問題である。逆説的にいえば、こうした問題は普遍性を有す

るがゆえに、運命共同体的な地球市民意識の涵養につながる可能性もある。つまり、リスク社会は近代社会を指すが、産業構造や科学技術の進展から新しい時代=段階として捉えるべきであり、これまでとは質的に異なる性格を持っていることを、私たちは意識せねばならない。

21 世紀において、もし日中間、または東アジア地域で構造的変化が起きつつあると理解するなら、この変化をどうとらえるべきか。また、私たちが目指す未来社会=日中関係とは、どのような姿なのだろうか。これらの問題に対して、リスク社会をキーワードに、学際的な視点から、私たち自身の問題として正面から答えてみたい。

风险社会 发展・共识・危机

2012 年是中日邦交正常化 40 周年的节庆年。在 2011 年，中日贸易总额达到了 3449 亿 1623 万美元（同前年比增长了 14.3%），达到了历史以来最高记录。中国已取代美国，成为了日本最大的贸易伙伴国。近年，不但是在经济领域，在环保，文化，教育等领域，交流，合作也在不断拓展和深化。

可是，就在节庆的日子临近的时候，中日间因为领岛问题发生了争执，在中国暴发了大规模的示威游行和抗议活动。多数纪念活动被取消，中日关系急剧紧张，这种紧张直接影响到了经济，政治，文化等各领域的正常交往。经济关系在不断深化的同时，围绕领土问题国家之间的政治外交关系趋于紧张，不仅是中日间，日韩之间也不例外地出现了对立和紧张。被称颂为世界经济领头军的东亚，到底发生了什么？2013 年初，日本政界也从民主党回到了自民党。可是，人们依然搞不清问题的症结所在，看不到出路在何方。

我们认为，在中，日，韩之间，即在东亚发生的问题是全球化在该地区的渗透和扩大的结果，同时又预示着这种变化不单纯是个别的，偶然的，而是构造性的，深层的。德国的社会学家贝克，把全球性的现代进程理解为，步入风险社会的过程。即现代社会，一方面在不断地完善控制和调整风险的

庞大的体系，另一方面，现代社会在深化的过程中又不断地制造跨越时空的风险，风险又变成了现代社会的对立面-威胁。在描述这种状态时，贝克用了一个很形象的比喻，即「贫困是阶级的，而烟雾却是民主的」。因为环境问题会超越时空和阶级，去影响所有的人。

总之，风险社会是指现代社会，但由于产业构造变化，科学技术的发展等具有时间性，风险社会又具有阶段性。不过，不论如何，我们都应该把风险社会理解为，具有与迄今为止的社会不同的特质和性格的社会。如果把中日间，东亚地区间发生的变化预测为构造性的变化，那我们又该如何理解这种变化的实质呢。同时，我们所追求的中日关系又该是什么样子的呢。针对以上问题，我们打算借助风险社会这一基本概念，从跨学科的视角，怀着真诚的信念，去回答我们所面临的问题。